

丹後地域の高校の在り方NEWS

【NO.4 平成29年3月】

再編の基本的な方針を決定しました！

京都府教育委員会では、今後、中長期的にみて少子化傾向が顕著な丹後地域において、府立高校の在り方について検討を重ねてきたところですが、地域の生徒数の減少が急速に進む状況を踏まえ、方向性を定めた上で、具体的な検討に入るべき時期にきていると考え、このたび、次の4点を基本的な方針として決定しましたのでお知らせします。

なお、再編等に関する今後の検討につきましても、皆様にお知らせしながら進めていきたいと考えており、生徒一人一人の希望進路の実現に向けたより魅力ある高校教育の推進に取り組んでまいります。

1 学舎制の導入 ～「地域に学校を残し、学校・生徒・地域をつなぐ新たな高校へ」～

多様な教育課程を編成し、将来の地域を支える人材を育成するという高校の役割を果たすため、一定の生徒数、教職員数を維持するとともに、通学の利便性にも配慮して、現在の校舎を活用する学舎制を導入します。

【対象校】 宮津高校と加悦谷高校、網野高校と久美浜高校

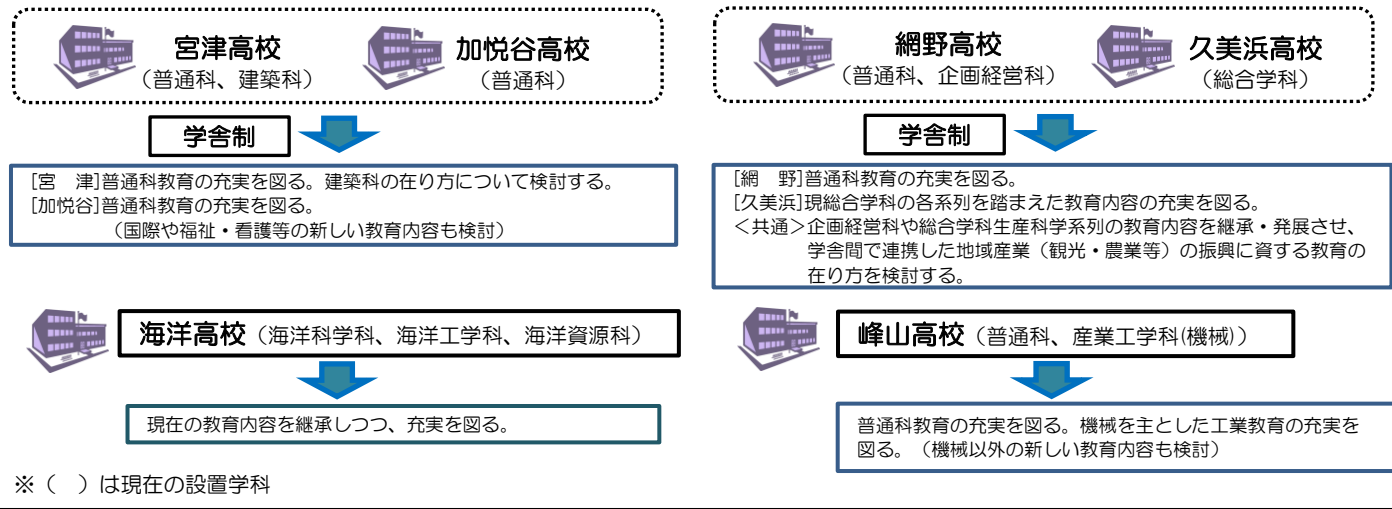
◇学舎制の導入に向け、今後、次のことについて具体的な検討や、高校、関係機関との調整を進めていきます。

- ・教育の内容（設置学科や教育課程、授業・学校行事・部活動等学舎間での連携など）
- ・学校名・校章・校歌・制服など再編に当たり検討・整理が必要なこと

◇学舎制を導入しない海洋高校、峰山高校についても、教育内容の充実に向けて検討を進めていきます。

【宮津・与謝地域】

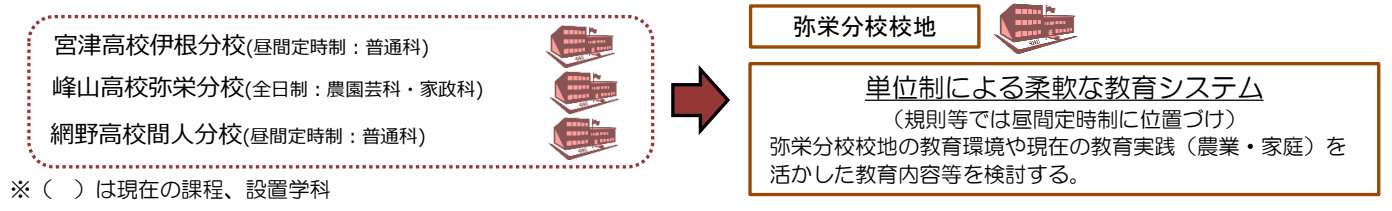
【京丹後地域】



2 京都フレックス学園構想に基づく学校づくり

各分校での取組を継承しつつ、その機能を集約して教育内容の充実を図るため、現峰山高校弥栄分校の校地において、宮津高校伊根分校、峰山高校弥栄分校、網野高校間人分校の3校を統合し、個々の生徒のニーズに応じた柔軟な教育を行う京都フレックス学園構想に基づく学校づくりを行います。

今後、学校体制や教育内容などについて、具体的な検討を進めていきます。

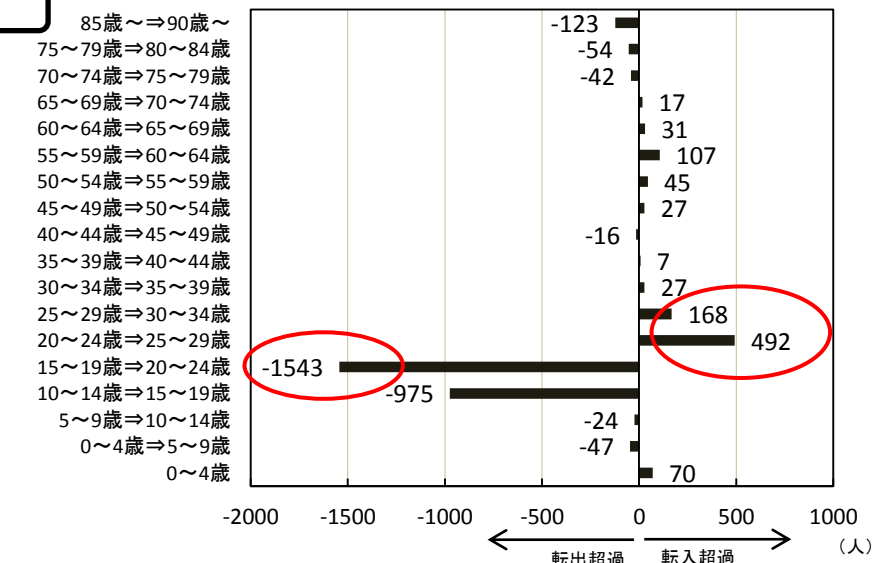


3 「地域創生教育推進プログラム」の実施

丹後地域の課題（人口動態より）

府が平成27年10月に策定した「京都府人口ビジョン」によると、丹後地域の人口は、大学進学時を含む15～19歳の転出が大きく、20～29歳の転入があるものの、全体として減少しています。（右図参照）

子どもたちに、自分の住む町だけでなく、広く丹後地域のことを知ること、高校・大学等を卒業後に、地域で生活し、地域を支えるという意識を醸成することが学校教育にも求められており、そのために、府・地元市町・企業・大学等が連携していく必要があります。



出典：総務省「2010年国勢調査」年齢階級別の5年間（2005年→2010年）の人口移動状況

このため、高校の再編と併せて、将来の地域を支える人材を育成するため、府北部地域の振興に参画している府内の大学や特色ある取組を行っている他府県の大学、地元市町、企業など関係機関と連携し、広く丹後地域のことを学ぶ教育活動「地域創生教育推進プログラム」を丹後地域の全ての府立高校で実施していきます。

【プログラムの内容】

- 地域学習（自然・文化・産業・市町の取組などについて学ぶ）
- 地域研究（探究活動、学校間での成果の交流・発表など）
- 地域連携・地域貢献活動
- 地域職業体験（幅広い分野でのソーシャルインターンシップ）

4 実施時期

平成32年度から実施することとし、平成29年度から具体的な検討・調整等を行っていきます。なお、大幅な変更を伴わない学科改編等については、先行して実施することもあります。



	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	再編実施 平成32年度
	現在の高校に入学して卒業	中学校3年 → 中学校2年 → 中学校1年	高校1年 → 中学校3年 → 中学校2年	高校2年 → 高校1年 → 中学校3年	高校3年 → 高校2年 → 高校1年
再編後の高校に入学	小学校6年	→ 中学校1年	→ 中学校2年	→ 中学校3年	→ 高校1年

再編等に関する今後の検討につきましては、引き続きNEWSを発行するなど皆様にお知らせしながら進めてまいります。

お問い合わせ:

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 京都府教育庁指導部高校教育課
☎075-414-5857

(ホームページ)

